

DAIMLER

ダイムラー・トラック・アジア



三菱ふそうトラック・バス株式会社
〒211-8522
神奈川県川崎市中原区大倉町10番地
電話 044-330-7700

Daimler India Commercial Vehicles
Pvt. Ltd.,
SIPCOT Industrial Growth Centre,
Oragadam, Mathur Post,
Sriperumbudur Taluk,
Kancheepuram District,
Tamil Nadu - 602105
Tel: +91 44 49694000

改訂日 2019年1月

ダイムラー・トラック・アジアへようこそ



ハートムット・シック
代表取締役社長
最高経営責任者 (CEO)

ダイムラーのトラック部門の一員としてアジアに拠点を置くダイムラー・トラック・アジア (DTA) は、三菱ふそうトラック・バス株式会社 (MFTBC) とダイムラー・インド・コマーシャル・ビークルズ社 (DICV) が共同で事業を行う組織です。85 年以上の歴史を誇る日本と、若く野心に溢れたインドの会社が、先進的な技術と品質を誇る FUSO とバーラト・ベンツのブランドで、世界 170 カ国以上のお客様に優れた製品とサービスをお届けしています。

DTA には 45 カ国以上の従業員が集結し、グローバル企業としてのアイデンティティを確立、事業の成功を取めています。私たちはひとつのチームとして可能性の全てを引き出し、事業目標を達成する組織です。

日本の MFTBC からは、お客様に燃費性、安全性と信頼性の高い確かな品質のトラック・バスをお届けしています。また最近では、「E-FUSO」という電気トラックブランドの電気小型トラック「eCanter」の量産を開始しました。私たちはこのように排出ガスを削減し環境保護を促進しています。

インドでは、2012 年にはバーラト・ベンツをインド国内に投入、現在では新興ブランドとして市場で二桁の市場シェアを誇る存在となりました。またインド生産のコスト・メリットと豊富な知識を基に、アジア、アフリカやラテンアメリカの成長国のお客様に、チェンナイのオラガダム工場で生産した製品をお届けしています。

DTA として、グローバルチームの強みを最大限にいかし、最高の価値をお客様に提供するのが私たちの使命です。

ハートムット・シック



松永 和夫
取締役会長 (代表取締役)

私は経済産業省に長年勤めた経験を通じ、日本企業が世界で競争力を保つためには、国際市場に乗り出すのみでなく、グローバルな人材を積極的に活用していくことが重要であると確信しています。

ダイムラー・トラック・アジア (DTA) は、高い評価と伝統を持つ日本の三菱ふそうトラック・バス株式会社と、インドのダイムラー・インド・コマーシャル・ビークルズの協業組織です。国籍や文化の壁を越えひとつとなったグローバル組織の素晴らしいモデルが私たち DTA です。

多様な文化を背景に持つこの組織は、才能とやる気に溢れた社員がひとつのチームとして共に働くことで優れたアイデアや製品を生み出しており、このユニークな企業文化が私たち DTA の強みとなっています。このようにして最高の製品やソリューションを世界中のお客様に提供しています。

人材は企業の中核を成し、その企業は社会に貢献していかなければなりません。トラックやバスなどの商用車は特に、世界中で物資や人を輸送する手段として社会を支える中心的な役割が求められています。DTA は、利益を追求するのみでなく、組織として成長し経済面、社会面、環境面で持続的に貢献していくことを目指します。

私たちは、温室効果ガスと騒音を抑制する環境に優しい電気トラックの世界をリードするのみでなく、企業として持続的に環境に貢献していきます。例えば、インドのチェンナイにある工場は工業用電力の約 7 割を自社発電しています。また、チェンナイと川崎の工場に太陽光パネルを導入し発電を行い、雨水の排水を再利用するなど、エコシステムにも積極的に寄与しています。また、社員が働きやすい環境を提供するため、フレックスタイムや在宅勤務など最新の雇用制度も導入しています。

DTA の素晴らしい世界へ皆様をご案内します。ぜひご覧ください。

松永 和夫



ふたつの組織によるひとつの商用車ポートフォリオ

ダイムラー・トラック・アジア (DTA) は、三菱ふそうトラック・バス株式会社 (MFTBC) とダイムラー・インド・コマーシャル・ビークルズ (DICV) の2社が構成する戦略組織です。両社の強みを活かし研究開発から調達、生産、輸出、販売・マーケティングに至るまで幅広い分野で協業し、お客様にとって価値の高い製品を提供します。

85年以上の歴史を持つ三菱ふそうトラック・バス株式会社 (MFTBC) と成長著しいインドで新興したダイムラー・インド・コマーシャル・ビークルズ (DICV) は、ダイムラー商用車部門の重要な子会社です。2社を合わせた販売台数はダイムラー商用車部門の販売総数の約3分の1を占めています。私たちは両社の強みを活かしたダイムラー・トラック・アジア (DTA) という組織を形成し、世界の商用車需要やお客様の多様なニーズに応えています。

DTAの製品ラインアップは、FUSOブランドの日本・海外成熟市場向けモデルおよび海外成長市場向けモデル、そしてインド市場向けのパーラト・ベンツブランドのモデルで構成されています。

共通戦略を掲げて2社が協業する組織の利点は、こうした技術的な側面だけでなく、人財の多様性にも及びます。さまざまな能力を持つ人財の交流を図り互いに学びながら協力し合うことで、文化融合が深化、また多様性を生み出すことができます。

DTAは2社それぞれの本社に加えて、神奈川県川崎市とインド・オラガダムに生産拠点を置いています。またインド・バンガロールにソフトウェア研究開発センター、栃木県の喜連川にMFTBCのテストコース、そしてインド・チェンナイにDICVのエンジニア拠点を置いており、DTAとしてこれらの施設を有効活用しています。

DTAは2017年、世界170カ国以上の市場で約171,000台の車両を販売しました。従業員数は約15,000人となっています (2017年末時点)。

両社がDTAとして協業することで様々なメリットを享受できます。サプライヤー網を効率的に構築・管理し高品質な部品を低価格で調達、またコスト競争力のある製品を開発・生産するなどして事業を拡大しています。

両社の親会社であるダイムラー社はメルセデス・ベンツブランドなどのトラック・バス、商用バンを扱う商用車事業部門やメルセデス・ベンツブランドを扱う乗用車事業部門、ファイナンシャル・サービス事業部門などを擁する世界最大の自動車メーカーです。同社はMFTBCの株式を89.29%、DICVの株式を100%保有しています。



三菱ふそうトラック・バス株式会社 (MFTBC)

社名:
三菱ふそう
トラックバス株式会社

本社所在地:
〒211-8522
神奈川県川崎市中原区
大倉町10番地

代表取締役会長:
松永和夫

代表取締役社長/CEO:
ハートムットシック

資本金:
350億円

設立年月日:
2003年1月6日

事業内容:
トラックバス、産業エンジン
などの開発、設計、製造、売買、
輸出入、その他取引業

在籍人員:
約10,000名

主な株主:
ダイムラー社 (89.29%)
三菱グループ各社 (10.71%)

ダイムラー・インド・コマーシャル・ビークルズ (DICV)

最高経営責任者 (CEO):
アーリヤサティヤカーム

従業員数:
4,000人 (2017年末時点)
インド販売・サービス拠点:
130以上

輸出市場:
アジア、中東、アフリカ及び
南米を含む40カ国以上

生産:
トラック、バス、バスシャシーン、
エンジン、トランスミッション



E-FUSO — 技術と進化をリードする

ダイムラー商用車部門子会社である三菱ふそうは小型電気トラックのパイオニア的存在です。2010年に電気トラック「キャンター E-Cell」をプロトタイプとして発表以後、2017年にはFUSO「eCanter」として電気トラックをシリーズ生産したOEMとなりました。

E-FUSO



FUSO「eCanter」

ダイムラー・トラック・アジア(DTA)は、2017年にニューヨークで小型電気トラックの量産モデル FUSO「eCanter」を発表し注目を集めました。「eCanter」は、北米、ヨーロッパ、そして日本市場に展開しています。

排ガス・騒音ゼロ

電気小型トラック「eCanter」は、今日の都市が抱える騒音や排出ガスの課題を解決する答えとして、三菱ふそうが開発した車両です。欧州での実用供試を通して、環境に優しく経済性に優れていることが証明されています。今回北米で発表した車両は、車両総重量 7.5 トンクラス、1 時間(直流急速充電) / 9 時間(交流 230V)の充電で航続距離は 100km 以上です。

電気駆動システムには、モーター(最大出力 129kW、最大トルク 420Nm)と、360V・13.8kWh の高電圧リチウムイオンバッテリーパックを 6 個搭載しています。従来のディーゼル車と比較して、走行 1 万キロメートルあたり、最大 1,000 ユーロのコスト削減を可能にしました。

研究開発とお客様テストの集大成

FUSO「eCanter」のデビューは単なる新製品発表には留まらず、ものづくりにとって画期的な出来事と言えるでしょう。FUSO は 2010 年にドイツで開催した IAA 国際商用車メッセで初の電気トラック「キャンター E-Cell」を発表以来、数々のお客様による実用供試を重ね、2014 年には試験的に事前シリーズ生産を行いました。

2014 年から 2017 年にかけて、ポルトガルやドイツ、そして日本で更なる実用供試を終え、2017 年 5 月には初めて日本で「eCanter」シリーズ生産を開始、既に北米、ヨーロッパ、日本を含むアジアのお客様に活用いただいています。

DTA は社会と環境に優しいものづくりを進め持続可能な物流ソリューションをこれからも提供していきます。





DTAで働くひとたち — グローバルに考えローカルで働く

企業の成功には社員のモチベーションと効率良い働きが欠かせません。

DTAには熱意に溢れ、誠実で規律正しい人たちが集まり、ひとりひとりがプロ意識を持ってさまざまな形で働いています。この集合体が企業のカラーを形成していると言えます。

タイムラー・トラック・アジア (DTA) は、多国籍間輸送ソリューションのプロバイダーとして世界 160 ヶ国以上の経済成長を支えています。そのDTAの事業の成功を支えているのが約 1 万 5 千人のグローバル社員です。DTAは、日本の三菱ふそうトラック・バス株式会社とインドのタイムラー・インド・コマーシャル・ビークルズをはじめ、米国、オーストラリア、南アフリカなど世界各国に拠点を広げています。商用車業界における車両の電動化、コネクティビティの導入、デジタル化といった革新的な動きをリードするDTAの職場環境は、他では経験できない素晴らしいものです。社員のワーク・ライフ・バランスも重視し、キャリアアップも目指せるサポートも充実しています。

社風

—オープンで互いを認め合い協力し合える職場環境—
DTAという組織の中核を担うのは、製品であり、プロセスであり、そ

して何といてもそこで働いている人々です。DTAはオープンで互いに協力し合うことができ、日々の発見に満ちた職場環境です。常に仕事の成果が重視されると同時に、社員のワーク・ライフ・バランスが保てる環境です。DTAでは45ヶ国以上の人々が働いており、事業の課題に対して異なる視点や案を持ち寄り、解決に取り組んでいます。社員一人一人が既存の概念に疑問を投げかけ、視野を広げ、解決方法を生み出す自由な環境が、事業の成長を支えています。

DTAでは社員の幸福度が高い人ほど仕事の生産性が高いと考え、柔軟な働き方を提供しています。自主性に満ちた仕事の進め方や、社員のプライベートの時間も尊重します。事業の成功のためだけでなく、自分自身の目標を達成するためにも、高いレベルで学び、成長する機会がここにあります。

イノベーション

—業界をリードする—
現在DTAは、車両の電動化、コネクティビティ、自動運転、デジタル化などに積極的に取り組んでおり、商用車業界の先駆的存在となっています。OEMとして電気トラックシリーズを発売し、またコネクティビティとデジタル化を採用した製品を生み出すなど、これまでの常識に常に挑戦し続け、業界に新しい風を吹き込んでいます。自らのスキルと知識をさらに磨きたい方、創造性と自主性を活かせる環境で働きたい方にとって、DTAは最高の職場と言えるでしょう。

機会

—日本、インド、そしてその先へ—
DTAで働く人には限らないチャンスが用意されています。またビジネスパーソンとしても人としても大きく成長することができます。やりがいのあるプロジェクトに挑戦し、経験を積むこともできます。キャリアデザインは、まさにあなた次第です。

DTAは、大きな組織では珍しく、比較的短期間で社員がステップアップできる仕組みがあります。

DTAは真のグローバル組織です。世界中の人々が共に働く中、他部門への異動も活発です。国境を超えてキャリアを積み、自分自身の世界を広げるチャンスもあります。東京とチェンナイにある事業所は多様性に溢れており、社員のキャリアアップを支援しています。世界中の市場の知識を得ることで製品やお客様へのサービスに貢献し、社員のレベルを引き上げます。DTAには多くのチャンスがあります。



ブランド

お客様のために信頼性の高い製品を世界に

ダイムラー・トラック・アジアには強力な製品ブランドがあります。
魅力のブランドと革新的技術で世界中のお客様の声に応えます。



FUSO

信頼される高品質とすぐれた経済効率性、機能的なデザイン、価値あるサービスで愛される、**三菱ふそうブランド**。

様々な革新技術と、省燃費などのトータルコスト削減によるお客様満足度の追求によって、世界中の国々で、日本の代表的なブランドとして認知されています。

製品開発はダイムラーの開発管理プロセス CVDS (Commercial Vehicle Development System) に基づいて行っており、製品の完成度と品質を確かなものにしていきます。お客様が最新技術の恩恵を受けることができるよう努めています。

TOS (Truck Operating System) は世界のダイムラー工場が最高の成果と持続的改善を行うために使うシステムです。このシステムで製品の安全性、品質、コストと従業員のモラルを維持することが出来ます。FUSOの工場はダイムラーの中でも常に高い効率性を誇っています。

喜連川研究所は日本のみならずダイムラー・トラック部門の中でも最大規模の研究・開発拠点です。厳しい標準に基づき行う研究・開発でFUSO製品の品質を確保しています。

2013年より新たに**FUSOブランド**が導入されました。FA、FI、FJ、FO、FZなどのモデルは、世界の成長国に展開しています。主にインドチェンナイにあるオラガダム工場生産するこのブランドは、ダイムラー・トラックの技術と日本の豊富な経験から生まれる高品質、インドの革新的なエンジニアリングの融合として生まれました。



E-FUSO

E-FUSO

FUSOは電気トラックの先駆的メーカーとして、電気トラック・バス専用のブランド「E-FUSO」を立ち上げ、次の時代への道を切り開きます。

「E-FUSO」はグローバルOEMとして初めて立ち上げた電気トラック・バスのブランドです。大型電気トラック「E-FUSO Vision One」は小型電気トラック「eCanter」の次のモデルとして、2021年のデビューを予定しています。「E-FUSO」のブランドでFUSOは電気車両のシリーズを拡充させていきます。

DTAはグローバルな商用車メーカーとして、温室効果ガスの削減に真剣に取り組んでいきます。

E-FUSO Vision One

「E-FUSO Vision One」は電気トラックの一步先を示すコンセプトトラックとして生まれました。

GVW 23tのこのモデルには、約11tの積載が可能で、用途と運転条件によっては一度の充電で350kmもの走行が可能です。

近未来的なデザインはFUSOモデルの将来デザインのみならず、すっきり広々とした車内は今後ドライバーの皆さまが働くモダンなスペースを示す象徴的な存在と言えます。

ヘッドアップディスプレイや最新のコネクティビティなどを搭載したこのモデルを通じ将来のトラック像を垣間見ることができます。

「E-FUSO」はFUSOのサブブランドとして電気トラック・バス専用のブランドとして新たに生まれ、「Vision One」が「E-FUSO」ブランドとして初の車両モデルとなりました。



バーラト・ベンツ

インド国内用に開発されたバーラト・ベンツは、ダイムラーの商用車の中で新世代ブランドとして生まれました。

スクールバスや観光バスとして9tから49tまでを揃え、最新の安全性と高い効率性を誇ります。

インドのために生み出された「メイド・イン・インド」バーラト・ベンツのトラックは、インドで高まるお客様の要求に応え、輸送・建設業界向けに開発されました。

ここで生産される全ての車両は、国内調達のコポーネントから部品に至るまで、一貫してダイムラーの世界標準に基づいています。



高出力で効率性の高い製品を

バーラト・ベンツの車両は次の特徴を備えます。

- 効率性 … 燃費の良いエンジンでメンテナンス費用を抑えます。
- 高性能 … 高出力、高トルクエンジンを搭載。
- 信頼性 … 幾度もの試験を重ね、高品質基準を保ちます。
- 安全性 … 車両そのものからドライバーまで安全性をトータルで考慮。

「一步先へ」

「バーラト・ベンツ」は2011年2月に発表以来、翌年9月には大型トラックモデルで市場デビューを果たしました。その後、中型トラクター(2013年)、ダンプ及びトラクター(2014年)、バス(2015年)を発売するなど、製品レンジを多岐に展開、インド国内に150以上の販売・サービス拠点を構え、市場デビューから6年目で既に累計75,000台が競争激しいインド市場のお客様のもとで活躍しています。





FUSO製品ラインアップ

大型トラック

GVW: 20 tons

スーパーグレート



スーパーグレート (トラクター)



FJ (海外専用)



FO (海外専用)



FZ (海外専用)



中型トラック

GVW: 8-20 tons

ファイター



ファイター (ダンプ)



FA/FI (海外専用)



バン

キャンターバン
(バン / 海外専用)



キャンターバン
(マイクロバス / 海外専用)



小型トラック

GVW: 3.5-8 tons

キャンター



キャンター エコ ハイブリッド



キャンター EX



キャンターガッツ



大型観光バス

エアロキーン



エアロエース



大型路線バス

エアロスター



小型バス

ローザ



産業用エンジン

4M50-TLE3BA



6M60-TLE3BA



6M70-TLE3A



E-FUSO

eキャンター



E-FUSO ビジョンワン





バーラト・ベンツ製品ラインアップ

カーゴタイプ — 中型トラック



車両総重量:	9.6 - 13 t
車両使用例:	貨物輸送
エンジン:	直列 4 気筒
出力:	100 kW
車軸 / 駆動軸:	4 × 2

建設用トラック



車両総重量:	13 - 25 t
車両使用例:	建設現場用
エンジン:	直列 4 気筒、直列 6 気筒
出力:	125 kW, 175 kW
車軸 / 駆動軸:	4 × 2, 6 × 4

カーゴタイプ 大型トラック



車両総重量:	16 - 37 t
車両使用例:	貨物輸送
エンジン:	直列 4 気筒、直列 6 気筒
出力:	125 kW, 175 kW
車軸 / 駆動軸:	4 × 2, 6 × 2, 8 × 2, 10 × 2

鉱山用トラック



車両総重量:	25 - 31 t
車両使用例:	鉱山用
エンジン:	直列 6 気筒
出力:	210 kW
車軸 / 駆動軸:	6 × 4, 8 × 4

トラクター



車両連結総重量:	40 - 49 t
車両使用例:	産業用輸送、重量物輸送、特別用途輸送
エンジン:	直列 6 気筒
出力:	175 kW, 210 kW, 295 kW
車軸 / 駆動軸:	4 × 2, 6 × 4

* その他ダイムラー・バス車両やバスシャシー等も DICV にて製造しています。



海外事業拠点

三菱ふそうのトラック・バスは、世界のあらゆる地域で使われ、世界中の販売ネットワークから、お客様に最適な製品やサービス、エリア情報が届けられています。

三菱ふそうでは、販売エリアに適した価格設定と効率の良い製品供給を行うため、可能な限り現地生産を推進してきました。現在では、パーツを輸出して現地で製品として組み立てるノックダウン生産の拠点を含め、全世界で17の生産拠点が存在しています。

生産拠点／研究開発拠点



1
MFTBC 本社
川崎製作所・技術センター
神奈川県川崎市

川崎製作所は三菱ふそう最大のトラック工場です。日本国内および輸出市場向けの小型・中型・大型トラックを製造しています。調達・物流・生産計画などの各業務部門のほか、研究開発センターやグローバル・ハイブリッド・センターも併設されています。



2
中津工場
神奈川県愛甲郡

東京からおよそ1時間に位置する中津工場は、トランスミッションやパワートレインの製造と組立に特化しています。オートメーション化された最先端の製造過程により、パワートレインの信頼性と耐久性を高めています。製造サイクルは、近隣の川崎工場と関係されています。



3
喜連川研究所
栃木県さくら市

東京からおよそ2時間の場所にある喜連川研究所。世界最大クラスの商用車の試験施設です。トラックとバスの試験を行う特別な施設やプロセス、スタッフを備えています。1980年以來、全ての三菱ふそう車両のコンセプトの成熟と、製品の品質を守り続けています。



4
三菱ふそうバス製造株式会社
富山県富山市

富山県にある三菱ふそうバス製造株式会社（MFBM）は、日本最大のバス工場の一つで、三菱ふそうのバス全体を製造しています。お客様のさまざまなニーズに応えるためカスタマイズにも特化しており、国内および世界に向けたバスを生産しています。



5
DICV
インド

インドのチェンナイで近代的な施設を備える DICV 工場の約 160 ヘクタールの敷地内には、ダイムラー・トラック部門の標準に基づいた最新の試験コース、本社及び開発拠点があり、FUSO、メルセデス・ベンツ、フレートライナーなどのブランド製品を世界約 40 カ国以上に輸出しています。